

## 妻・母として日本の専業主婦から学ぶこと

私は長く日本に住んでいて、働いていますが、2人の子どもの母親でもあります。家庭生活において、日本の専業主婦に学ぶところは少なくありません。たとえば、料理の栄養バランスへの配慮はかなりのレベルです。この点で日本の専業主婦の知恵には頭が下がります。彼女たちは社会に出て知性を発揮する機会を持っていませんが、家族への健康配慮はすばらしい。夫に外で安心して働いてもらうのも、社会への1つの貢献だと思います。

日本の専業主婦の美徳は、「修身齐家治国平天下」〔天下を治めるには、まず自分の行いを正しくし、次に家庭をととのえ、次に国家を治め、そして天下を平和にすべきである〕という孔子、孟子の思想が、日本人の生活に溶け込んでいることを思わせます。

彼女たちとのつきあいの中では、食事の成分バランスも学びました。各成分のカロリーがどれだけあ

って、栄養バランスが足りているかどうかなど。私の努力で家族みんなが健康になり、よりよく社会貢献できるようにと願っています。

日本社会への見方をいえば、日本人のサービス業はきわめて優秀だと思います。お客様に対しては、みんなこぼれんばかりの笑みをたたえ、最高の状態で接客します。もしもルーツをさかのぼれば、これも中国伝統文化の1つです。すなわち「仁」であり、それは「仁」を由来として、こんにちの日本が重視する人間的なサービスへと変化したのです。

日本人はマナーやエチケット(礼儀)を重視しますが、互いに譲り合うという習慣も、中国の伝統文化をルーツとしています。中国には5000年の文明史があり、もとより「礼儀の国」の称があります。いま、中国は国学のすばらしさを再発見し、自国文化に自信を持ち始めている。これはとてもいいことですが、教育にはプロセスが必要です。かつては日本人が中国文化を学び、暮らしの中に応用しましたが、こんにちにはわれわれ中国人が日本人に学び、民

族のすぐれた文化を再重視して、暮らしの中に広めなければなりません。

私は長男に対しても国学教育を行い、まず「忠」と「孝」を理解させました。忠とはつまり、家族や社会、彼ののちの奥さん、のちの仕事に忠誠を尽くすこと。孝とはつまり、「百善は孝をはじめとする」〔百の善行の第一が孝である〕ということ。子どもには「一日一善」、毎日1つよいことをし、徳を積む習慣をつけさせています。孝とはまず親孝行をすることです、たとえば毎日、両親に一杯ずつコーヒーを入れることなどです。

もちろん、親である私たちも自ら手本となるべきです。言葉よりも行動で教えるほうが重要です。子ども心の健全な成長は、家庭にも社会にも有益なことなのです。

孔子の末裔の一人として、また一人の母親として、日本というこの儒学の世界に住むことができ、非常に恩を感じています。

孔子はかつてこういいました。「吾れ十有五にして

て学に志ざす。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず〔決して人の道から外れることなく生きる〕」

これは孔子の人生プランであり、人生の成長過程の総括でもある。私たちはそこから啓示を受けることができます。つまり子どもに対しては「青春時代を大事にし、勤勉で思考に優れ、勇敢に実践し、人の基礎をしっかりと打ち立て、自信に満ちてその成長過程で成功を収め、喜びを味わう」ことを教え導かなければならないのです。